

あかるく かしこく たくましく

令和6年2月28日 No. 49 文責：校長 佐野紳二

人と上手につながる 「きみを強くする50のことば」より

学校通信 No.33 で、今年の先生方のおススメの本を紹介しました。それから4か月ほどが経ちましたが、小笠原小のみなさんは先生方が紹介してくれた本の中を、実際に手に取って読んでみたでしょうか？そういう私自身、先生方が紹介してくれた本のほとんどはいまだに読んでおらず、大変申し訳ないな、と反省をしているところですが…。

今日は先生方が紹介してくれた本の中から、1冊の本の内容を皆さんにも紹介したいと思います。本の題名は「きみを強くする50のことば」、著者は工藤勇一さんという方で、紹介してくれたのは3年2組の担任です。工藤勇一さんのことは、同じ学校通信 No.33 の中に少し書かせていただいたので紹介は省きますが、この本は工藤さんが子どもたちに宛てて書いた、ステキな大人になるために必要な（と工藤さんが考えている）「自律」と「尊重」を身に付けていくための50のヒントが書かれています。50個まとめてではなく、「自分をきたえるヒント」「人とつながるヒント」「学ぶときのヒント」「挑戦するためのヒント」「楽しく生きるヒント」と5つの章に分かれていて、それぞれの章で10個のヒントが示されています。すべてを紹介するのは紙面の関係で難しいので、今回は「自律」と「尊重」とは何かということと、5つの章の中から「人とつながるヒント」の章をピックアップして紹介します。



「自律」と「尊重」って何？

自律とは、自分で考え、自分で判断し、自分で決定して、自分から行動すること。
尊重とは、まわりの人のちがいを認め、自分を含めてすべての人を大切にすること。

毎日ハツラツとしていて、ピンチの時にもそれを楽しむかのように乗り越えていける、キラキラした大人に近づくためのキーワード。すぐに身につけられるものではなく、さまざまな経験をいくつも積み重ねて培われていくものと工藤さんは考えています。この本で紹介されている50のことばは、「自律」と「尊重」につながる考え方や過ごし方をまとめたもの、と工藤さんは語っています。

人とつながるヒント10

①全員ちがってオーケー

好きなことも、得意なことも、大切にしていることも、生まれ育った環境も、一人一人がオリジナルで、かけがえのないもの。だから、自分とちがう考えや立場も、オーケーと受け止めよう。

②「きらい」でも、いじわるはしない

だれにでも「きらいだ」「気が合わないな」という人はいる。大人だってそうだ。でもいじわるはしないよ。考え方や感じ方のちがいを知ることは、自分を知ることもつながるよ。



③意見のちがいは当たり前

自分とまったく同じ人はいない。世の中にはいろんな人がいる。意見のちがいが起こるのは当たり前だよ。意見がちがうことにおくびょうにならないで。

④イライラはいったん切りはなす

意見がかみ合わないときって、イライラするから困るよね。そういうときこそ落ち着いて！イライラのコントロールにはちょっと練習がいるんだ。



⑤全員がハッピーになる答えを見つける

みんなの意見がたとえちがっていても、だれひとり取り残さずに全員がハッピーになれる答えを見つけることが大事なんだ。

⑥みんなの「いちばん」にもどる

意見が対立した時は、みんなの「いちばん」を確認しよう。たとえば「勝つこと」なのか、「楽しむこと」なのか。全員が大切にしていることがわかれば、必ず答えは見えてくるよ。



⑦相手の感じ方を想像しながら話す

言葉は伝わることではじめて意味を持つ。きみがどう思っている、受け止め方は相手しだい。何気ないひとと言も、聞き手がどう感じるかを想像しながら話してみよう。

⑧ケンカを乗り越えることにこそ意味がある

ケンカは苦しい。でも、どの言葉やふるまいが相手や自分を傷つけたのかケンカせずにすむ方法はあったのか、どうすれば仲直りできるのかを、考えるチャンスでもある。



⑨信用されるってけっこう難しい

人は行動の積み重ねで評価されるもの。信用は少しずつ長い時間をかけて、やっとなんてつくり上げられるものなんだよ。

⑩友だちは多くなくてもいい

たくさんの友だちがいるのもいいし、ひとりでいたってかまわない。みんなと合わせる、合わせないは、きみが決めればいいんだ。

いかがでしょうか？学校は「学問を学ぶところ」であると同時に、「人のかかわり方を学ぶところ」だと思っています。我々大人は子どもたちに対して「みんなと仲良くしなさい」なんて言いがちですが（理想論として間違っていないと思いますが）、自分自身のことを振り返ってみると、それはなかなか難しいことだと、私自身は思っています。でも、「だれとでも仲良く」することは難しくても、「だれとでもうまく付き合う」ことはできると思いますし、子どもたちにもその方法を学んでほしいと思います。その時に大切なのが①の「全員ちがってオーケー」と考えられることであり、⑤の「全員がハッピーになる答えを見つける」とこと、⑥の「みんなの『いちばん』にもどる」ことだと、私は思っています。

この「きみを強くする50のことば」には、他にも子どもたちに知ってほしい考え方がたくさん書かれています。ぜひ、多くの子どもたちに手に取って読んでもらいたい一冊です。

欠点のない人間はないだろう。
友人の欠点をとがめ立てていたら、
この世に友人というものはないだろう。

高見 順(作家・詩人)

人からきらわれることをおそれるより、
欠点はあってもいいから、
それ以上に魅力のある自分になった方がいい。

秋元 康(放送作家・作詞家)